

“強く、賢く、逞しく”



子育て応援団、ハツとしてワツとさす!

学校では廊下を歩いていると、歌を歌う元気な声、教科書を読む楽しそうな声（最近は、自粛気味ですが）など、いろいろな声が聞こえてきます。国語の教科書には、物語文や説明文など様々な文章が載っていますが、そのどれもが、大変考えさせられる内容です。例えば1年生の下の教科書に、「どうぶつの赤ちゃん」という説明文があります。内容は、以下の通り。

●ライオンの赤ちゃんは、生まれたとき、子猫ぐらい。目や耳はとじたままで弱々しい。1年ぐらいたつと、お母さんや仲間がするのをみて獲物を自ら捕まえて食べるようになる。

●しまうまの赤ちゃんは、生まれたとき、もうやぎぐらいの大きさがあり、目はあいていて、耳もぴんと立っている。生まれて30分もたたないうちに自分で立ち上がり、次の日には走るようになる。七日ぐらいたつと、お乳も飲むが自分で草も食べるようになる。

●さて、人間の赤ちゃんはどうでしょう。立ち上がるまでに1年、自分で食べ物を食べるまでになるのは…。長い時間をかけて成長し、自立し、大人（成人）になって行きます。

ここで思うのは、家族の愛を一身に受け、「愛されている実感」がある子どもは、その後の人生を力強く生きていくということ。大切なのは、自立を後押しする親の関わり方。保護者の名のとおり、幼い頃保護するのは当然の義務。しかし、いつまでも保護し続けようとするのはどうなのか。大変難しいことですが考えるに値することです。

乳児は、しっかりと肌を離すな
幼児は、肌を離せ、手を離すな
少年は、手を離せ、目を離すな
青年は、目を離せ、心を離すな

さて、小学生はどこに位置するのでしょうか！

その気持ちが宝の山に♡

ペットボトルキャップ、そのまま捨てればごみの山！しかし、目的を持って集めれば、宝の山に！その目的とは、キャップの売却益をワクチンに変えること♡そのワクチンは、途上国の子ども支援に活用されているそうです。

本校でも、PTA 成人教育部のリーダーシップで収集活動を展開しています。写真のように多くの善意が寄せられました。これは、ご家庭の協力、子供たちの思いがあつてのことだと思えます。また、大石の区長様が、わざわざ学校に持ってきて頂いたこともありました。全てのご厚意に感謝しますと共に、1年間の結果のご報告に替えさせていただきます。



3月のお話集会での話

皆さんは、神社などの階段を登ったことがありますか？何段もの階段を登り終えて振り向くと、そこには雄大な景色が広がります。階段を登る前には見えていなかったものが、一段上がるごとに少しずつ見えてくるようになります。一段目より二段目が、二段目より三段目の方が、より沢山のものが見えます。

階段の場合は見えてくるのは景色ですが、これが学年ならどうでしょう。学年が一つあがると何が見えてきますか？それは「人の心」です。前の学年では見えていなかった、友達の喜びや悲しみの心が見えてきます。上の学年になればなるほど、それが沢山見えてくるはずですが、それが見えるようになれば、一緒に喜んだり手伝ってあげたりすることができます。学年が上がると言うことは、体が大きくなるということではありません。沢山の心が見えるようになるということなんです。今のあなたは、周りの人達の心がどれくらい見えていますか？もう少しで学年が上がります。今より、もっと沢山の人の気持ちが分かるようになることが、本当に上の学年に上がったということなんです…。(後略)



